



フレッド



チェスター



ビル



テッド



ゴドウィン



オーダリー



ロイ



ドウェイン



悔しいか？

だが
我が主人のために
働く名誉を与えよう

しかし今は奴隷

貴様らは
元犯罪者らしいな



こんなところで
野放しにしたら
すぐ逃げ出すわよ
こいつら



この屋敷は
わしの別荘より
小さいじゃないか



俺たちが
真面目に働く？
ははっバカか





貴様らには
慣れるまで
牢屋に入ってもらおうが

生憎
牢屋は4つしか
ないのでな

隣同士で
ペアになってもらう

怪力ビルと
ペアか……
こりや脱獄は
はやいかもな……

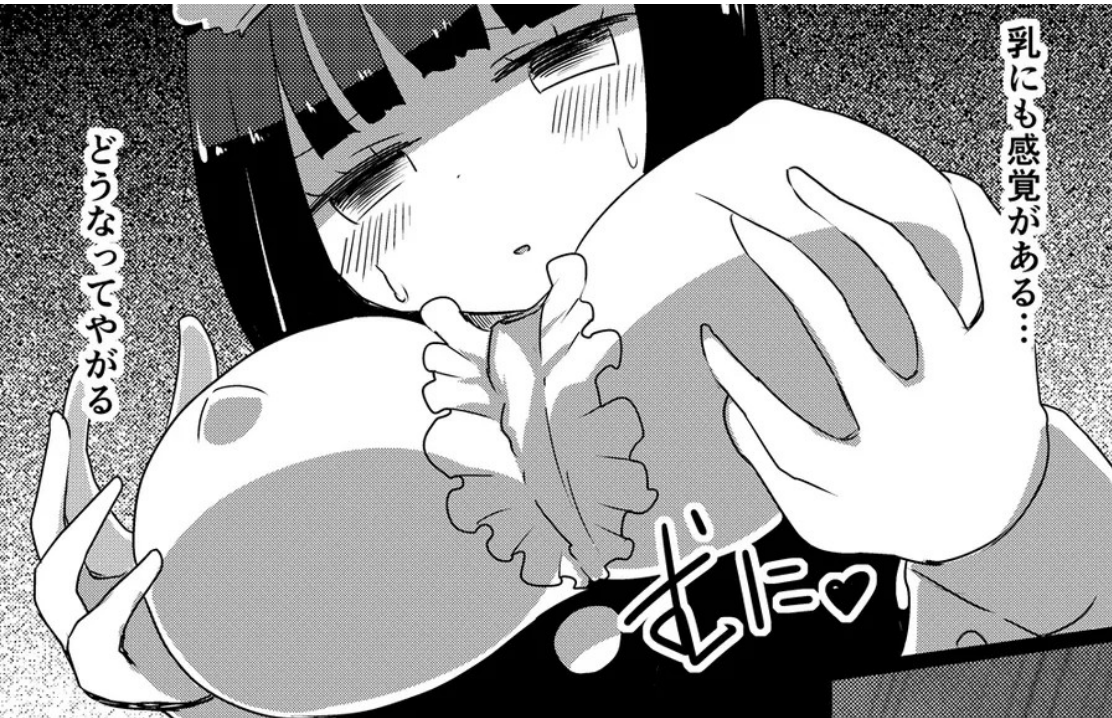
しかし
そのとき俺たちは
まだ気付いていなかった

俺たちの体に
起こる怪奇を
予測できる者など
いなかった

これは牢屋の鉄や石との
戦いではなく

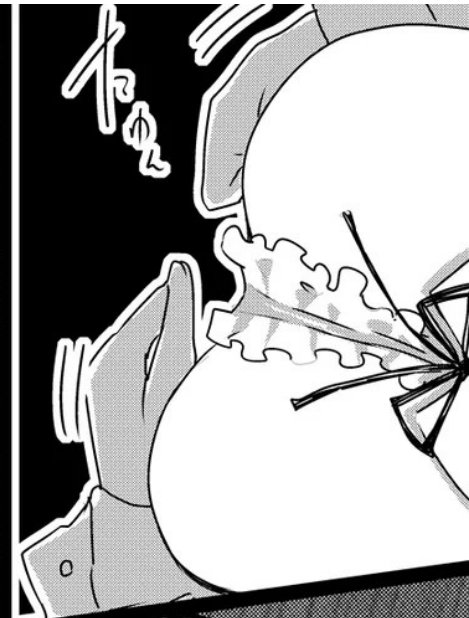
女体の檻の肉と欲への
抗いであることを

では諸君を
我が屋敷の
メイドにしてあげよう



乳にも感覚がある...

どろろなってるやがる



下も...
なにもない...



全身が窮屈な感じ
なのはメイド服のせいかな？



ない...



皮の内側には
俺のナニが
あるはずだ！

あのまま股間を
まさぐりつづけたら

俺が俺でなくなる
ような気がした――

一通り身体を
調べたが完全に
メイドの体になっていた

その後
ビルが目を覚ました

おで…おで…
おんなのこに…

事情を説明すると
俺と同じように
体をまさぐりだした

はじめのうちは
かわいいもんだったが

おっぱい
やわらかいぞ…

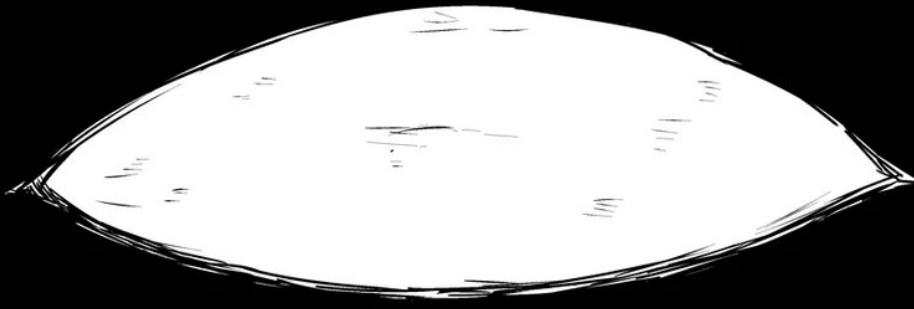
女体への探求は
エスカレートし

股間を弄りだしたので
やめさせた

やめとけ



なんだ...?



体に
違和感がある...

確か俺たちは
メイドの皮を
着せられて...

アウ
アウ...

ごいつは誰だ...?

まさか
ビルなのか...



声が

説明しやがれ!

おい!
執事野郎!



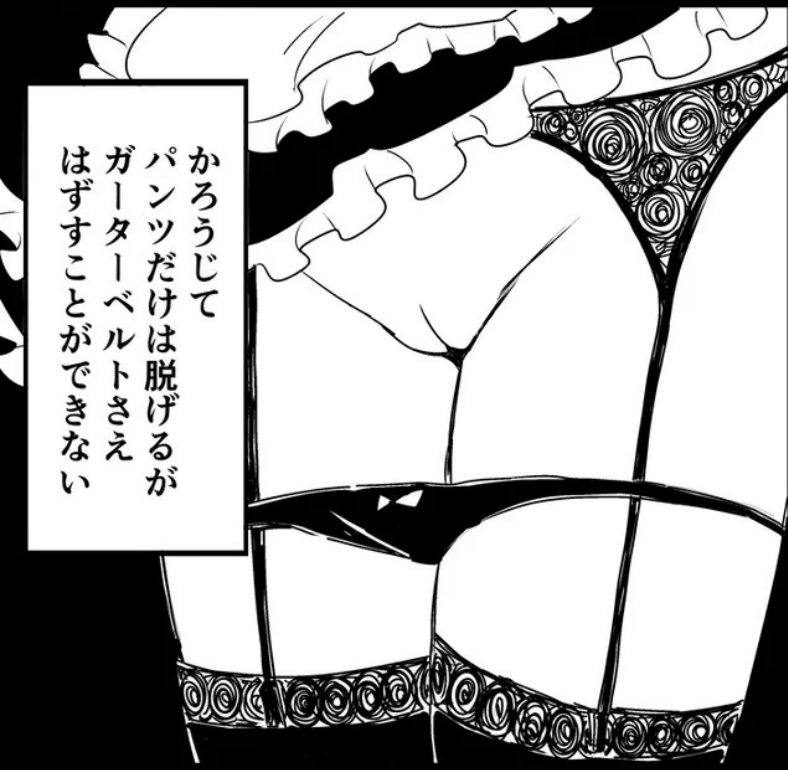


怪力はなくなつて
ないらしい

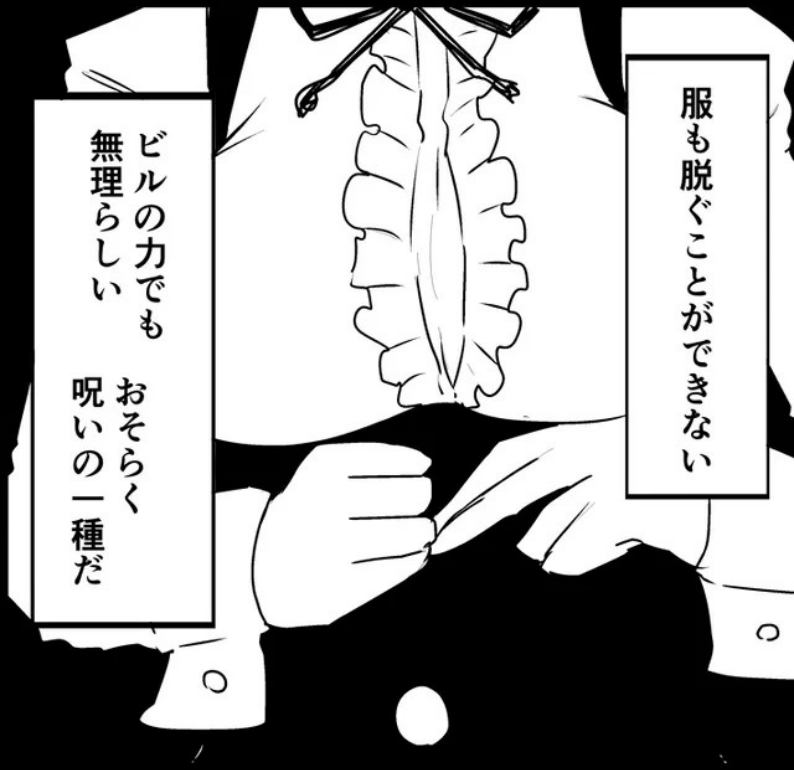
だが檻を
こじ開けることは
できなかった



背中にはチャックがあるが
おろすことはできなかった



かろうじて
パンツだけは脱げるが
ガーターベルトさえ
はずすことができない



ビルの力でも
無理らしい

おそらく
呪いの一種だ

服も脱ぐことができない



千エスター
かわいいと…

キスするぞ〜

馬鹿か

俺たちはメイドという檻に
拘束されたのだ